

平成 30 年 9 月 11 日

富良野市議会議長 日 里 雅 至 様

経済建設委員長 岡 本 俊

## 委員会事務調査報告書

平成 30 年第 2 回定例会において、継続調査の許可を得た事件について、下記のとおり結果を報告します。

### 記

1. 調査案件  
調査第 2 号 6 次産業化とスマート農業について
2. 調査の経過及び結果  
別紙のとおり

## 6 次産業化とスマート農業について

経済建設委員会より、平成 30 年第 2 回定例会において許可を得た、事務調査第 2 号「6 次産業化とスマート農業について」の調査経過と結果について報告する。

本委員会では、担当部局に「6 次産業化とスマート農業について」の資料の提出と説明を求め、あわせて市内現地調査を行ってきたところである。

### 6 次産業化について

6 次産業化とは、1 次産業としての農林水産業と 2 次産業としての食品加工、3 次産業としての小売産業等の事業とが総合的に連携を図り、地域資源を活用し新たな付加価値を創出し農業の所得向上や雇用確保につなげ、産業としての農業の可能性を高めるものである。

平成 22 年 12 月に「地域資源を活用した農林業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産業の利用促進に関する法律」、いわゆる 6 次産業化法が施行された目的は、農業経営の多角化・高度化を図るものである。

本市では 6 次産業化の取り組みとして商品化への講演会、事例発表会などを開催し、地域農業の可能性を高める取り組みを行っている現状にある。

さらに、富良野市に訪れる観光客は年間約 180 万人、中でも「フラノマルシェ」には年間約 120 万人が訪れ、富良野の食材や加工食品を活かした「食文化の発信基地」となっており、自らの生産物を加工、販売を行っている現状にあることから、農産加工品の販売環境は他の地域より優れている。

本市での 6 次産業化を推進するための支援策として、経済部商工観光課が所管する「中小企業振興総合補助金」「商工業パワーアップ資金融資事業」、そして農林課による相談窓口の設置、研修会の実施、国の 6 次産業化サポート事業への引継ぎが行われているものの、農業者が 6 次産業化に本格的に取り組むには、さらなる環境整備が求められている現状にあり、国の制度に捉われない富良野らしさとしての柔軟性を持った体制づくりについて意見が出されたところである。

今後、6 次産業化推進に当たり、行政に求められる役割として農林課、商工観光課がより連携した中での講演会の開催、農業者のみならず商業者へも情報発信、情報提供を積極的に行い、補助制度の充実、気軽に相談できる窓口体制の充実、マッチング機会の提供を行い、6 次産業化拡大に向け基礎的インフラ整備の充実を図られたい。

## スマート農業について

本市農業の現状は、農業者の高齢化や後継者不足によって、平成 19 年で 786 戸に対し、平成 29 年では 500 戸台と農家戸数は減少している。

これに伴い、1 戸当たりの平均耕作面積は、平成 19 年に 11.96ha が平成 29 年には約 15.5ha と経営面積の増加が進んでおり、今後も経営面積拡大は進行することが考えられる。

さらに本市のメロン、ミニトマト等は全国的に高い評価を得ており、生産拡大が望まれているが、現状では農業就労人口の高齢化、減少に加え、臨時的労働力の確保も困難の一途であり、農業労働力の確保及び省力化は喫緊の課題である。

そうした中、本市は平成 29 年より「スマート農業促進支援事業」に取り組み、補助対象メニューはハウス自動換気設備と GPS ガイダンス自動操舵システムの 2 種類のみで、ハウス自動換気設備を 10 戸 146 棟、GPS ガイダンス自動操舵システムを 12 戸に対し、総額 6,169 千円の補助を行っている。さらに、今年度からは農産物の生産活動をデータ化し、農作業の効率化を図る「農業生産管理クラウドシステム」も、補助対象に追加されたところである。

本委員会では、導入農家の現地調査を行い、導入効果を直接聞き取った結果、労働力軽減に対する効果は大きく、規模拡大が進み、労働力不足が課題となる富良野農業にはスマート農業の導入は必要不可欠であると考える。

スマート農業促進支援事業の対象メニューはハウス自動換気設備と GPS ガイダンス自動操舵システム、農業生産管理クラウドシステムの 3 種類であるが、今後 ICT を活用した農作業の効率化が進む中、スマート農業の情報提供を積極的に進め、その有効性を周知し補助対象の拡大も視野に入れた支援策を行うことが重要と考える。

また、スマート農業の導入により省力化が進むことで生み出される労働力が、6 次産業化を支える労働力となる可能性があることから、6 次産業化とスマート農業の導入推進は、今後の富良野農業の持続的発展にとって両輪となる取り組みであると意見の一致を見たところである。